

令和3年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

[評価基準は A:十分達成できた(80%以上), B:ある程度達成できた(60%程度), C:あまり達成できなかった(40%程度), D:達成できなかった(20%以下)]

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	学校関係者評価委員の質問・意見	
教育活動全般	1	分掌活動	分掌組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な分掌運営に協力できたか	A	<p>《全体として》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策については校長指導の下、「報告・連絡・相談」を徹底し、学校全体で組織的に動くことができた。 《生徒課》 ・各種規定、運用のアップデートを行った。引き続き、不易と流行を見誤らぬよう規定内容を精査、検討していかなければならないと感じている。教員同士が独自基準で動くのではなく、すり合わせをしっかりと指導に当たる体制作りをしていきたい。 ・教育相談活動の需要が年々高まる中、教育相談員・特別支援員(中学)を配置し、週1回の特別支援会議を行った。今後は発信力や連携力、啓発力を高めていきたい。 《教務課》 ・昨年に引き続き、コロナ対応に追われる1年だったが、予定変更にはできる限り柔軟に対応し、授業の短縮やカットは最小限にとどめ、授業時数の確保に努めた。 ・分散登校に備えてオンライン授業の準備とGoogleclassroomの活用を積極的に進められた。今後は機器導入に向けた準備を行うと共に、ICTの運用能力を高めたい。 ・中学では「ジムリン」を使つての観点別評価(成績評価)が始まった。来年度は「ジムリン」のデータを学籍システムにスムーズに移行する方法を周知徹底していきたい。 ・新学習指導要領、新大学入試制度に合わせた指導方法を確立し、必要な書類の整備に向けての確認作業を継続していく。 《進路課》 ・生徒の進路を啓蒙するような場が少なかったことが反省点。附属高校総合能力入試に向けて、情報提供、資格取得の促進、付加価値があるものを体験させるなど、指導体制を整えていかななくてはならない。特に部活動の大会と「学びを知る機会」との日程調整は慎重に行う必要がある。 《その他》 ・広報活動としてInstagramのアカウントを作成した。新入生や卒業生がよく見ているという話を聞くので、今後は募集にもつながるよう積極的に更新していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時で大変な中、「Classroom」や「ジムリン」など随所でICTを活用され、具体的に成果をあげられているところが素晴らしいと感じます。《※1~4共通》 ・毎朝貴校の前を通っておりますが、通学時の様子はとても素晴らしいと思います。生徒の皆さんの身だしなみや挨拶の様子はもちろんですが、常に付近を整えきれいな状態で気持ちが良いと感じています。コロナ禍もちょうど2年となり、試行錯誤しながら新しい形の指導方法など実践していらっしゃる様子が伺えます。同じ教育の現場にいる私自身も手探り状態で、この2年間を乗り切つて参りました。ICTの活用が急務であったため、必死の思いでスキルを身に付け授業を行い、学生指導にもフル活用いたしました。今回の学校評価委員会についても、オンラインでの開催であれば、意見交換等がよりスムーズにできたのではないのでしょうか。 ・生徒課に関しては昨年、話題にもなっている理由が明確でない髪型などの規定(校則)に対して、精査・検討すること、また全職員が情報を共有することは最も重要なことであると感じます。明確な理由がなければ、生徒は納得できないからです。
	2	学年運営	学年組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な学年運営に協力できたか	A	<p>《中等部》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用したオンライン授業が行えるようになり、最低限の学びの機会は保障されたと感じる。コロナ陽性者の長期欠席や学級閉鎖時にも対応できたのは収穫だった。 ・中2・3年生のシズクリなど総合学習の取り組みは先生方の丁寧な準備と振り返りにより、非常に充実した学習活動ができた。中3にはあらかじめ「リーダーシップ研修」を行うことでその後の縦割り行事に活かすことができた。「シズクリプロジェクト」に関しては説明会に参加した保護者からの反響も非常に大きく、何より我々教員が子供たちの柔軟な発想力やその成長ぶりに驚きと感動を覚えている。子供たちが自分たちの変化を体感できていることも大きい。来年度以降も是非非常葉の探究活動の核としていきたい。 《1年部》 ・今年の1年生は、素直で周りのことによく気が付く生徒も多いが、中には規範意識が低い者、集中力に欠ける者、クラスになじめない者、対人関係がうまくいかない者も多い。来年度もきめ細かな生徒指導が必要だと思う。生徒の情報を学年や教科担当者で共有しながら、クラスの枠を超えた指導を今後も行っていきたい。 《2年部》 ・学級担任はHRの生徒をきちんと掌握した上での学級経営を行い、副担任はそのサポートが丁寧にできていた。生徒数が少ない分、生徒一人一人を見てあげやすいという常葉の強みを生かした指導が行われていたと感じる。将来を見据えた進路を考えさせ、その実現に向け自分がなすべきことに目を向けさせることが今後の課題である。 ・コロナ感染により、多くの行事(修学旅行中止など)が縮小、中止され生徒には気の毒な1年であったが、やり方を工夫することで実施できる行事を増やしていきたい。 《3年部》 ・この1年が高校生活の集大成となるよう、卒業にむけての生徒個々の状況の早期掌握と対応に時間をかけた。(面談・個別教科指導・小論文指導など) ・進路指導では来年度以降、附属校入試が大きく変わるが、今までに得た知見を活かしたい。1年間の見直しをもって誰に聞いても流れがわかるような体制づくりが必要。 ・学年で「報告・連絡・相談」が徹底され、円滑に物事を進められた。定期的な学年通信の内容も子どもたちの心に届いていたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務課中等部のICTオンライン授業の実施についてコロナ禍だからではなく、低年齢からのICT教育はこれからの時代必須となるのではないのでしょうか。教員のスキルアップも不可欠となり、学校としてフォローアップ研修などの機会を増やすことも必要かと思えます。 ・コロナ禍での修学旅行は、中学3年生は当初予定されていた目的地には行けませんでした。代替の地でも十分楽しく良い思い出になったと聞いています。実施していただくことができ良かったと思います。 ・《1年部》の記載について「終わり良ければすべてよし」、全ての生徒に目を配り、子供達が常葉に来て良かったと思える運営をしてほしい。
	3	コース・系列運営	コース・系列の組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な運営に協力できたか	A	<p>《全体として》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「連携講座」を中心とした、大学や外部機関との教育連携はうまく取れていたと思う。点在化している個々の行事や探求活動をリンクさせるため、教員間で話し合う機会をもうけられたのは良かった。今後は行事の意義を明確化していきながら、校内での事後指導を充実させ、生徒の進路意識を向上させたい。 ・今年度、新たな取り組みとして、『探究活動を実践に移し、様々な支援を受けながら自分たちの企画を実社会で実践・実装していくプロジェクト「MIRAIB」』の実証校に参加した。現在は高1、高2の特進コース、各系列からの選抜生徒による課外活動であるが、来年度には常葉中学で探究学習「シズクリ」を学んだ生徒が高校に入学するので、向上心を持った生徒が自由に参加できる活動となるよう、内容を検討していきたい。 《看護系列》・《医療・健康系列》実習が実施できず、座学での連携講座になってしまったのが残念。同じ系列を目指す上級生の体験談などを共有出来たら良いと感じた。 《保育系列》 ・昨年度、コロナ禍で現場実習が出来なかった3年生に対しては学校が間に入って調整し、積極的に保育福祉施設でのボランティアを勧め、体験をつまませることができた。 ・今年度は、従来のやり方を工夫することで保育園実習や幼稚園ボランティア、オペレッタの創作やエプロンシアター等、様々な企画を実現できたのは良かったと思う。 《総合進学系列》 ・家政の連携講座では新たに防災関連の講座や野菜を使ったバランスのよい食事、日本食などについて学ぶことができた。身近なテーマであり、生徒の関心も高かった。 ・総合といってもやりたいこと方向性が定まっている生徒は意外と多い。自分とは何か、自分の可能性は何かを考えさせるような講座があってもいいように感じた。 《特進コース》 ・「特進アドバンスゼミ」では授業の復習と模試対策を行ったが、コースの目標と生徒の現状とのギャップが大きく、推薦と一般どちらの入試にも対応するのが難しくなっている。特進コースの位置づけを明確にし、学校全体で特進を育てようという雰囲気不可決であると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携講座は常葉の「ウリ」になると思います。さらなる充実を期待します。 ・《保育系列》の体験重視の活動は素晴らしい。 ・《総合進学系列》では今後、外部社会人を招いての講話など、生徒の視野を広げていく働きかけも大事だと感じる。
	4	教科活動	教科の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な教科の運営に協力できたか	A	<p>《全体として》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力を向上させる上で効果的と思われる授業実践について、各教科で積極的に意見交換し、教員間で共有しようとする様子が見られた。またICTを活用した調べ学習やプレゼンなどの活動も活発に行われた。次年度は、オンライン授業への工夫も含め、これらが学校全体の特長に育つようにブラッシュアップしていきたい。 ・来年度から高校でも始まる観点別評価に向けて、「ジムリン」の活用方法と評価基準の策定を各教科で行った。 《国語》 ・進路課と協力し、全校一斉漢検を行った。漢検の希望者も多く、合格者も増加した。教科では3年間の小テスト計画を立て、1冊の問題集を繰り返す見直しを立てている。 ・新しく入って来られた先生方の知識や経験を活かし、生徒の学力を上げるため、これまでのやり方を見直し、改善できたことはとても良かったと思う。 《数学》ICT推進のため、授業で積極的にipadを使用した。図形の単元ではipadの有効活用ができることがわかり、来年度以降の授業内容の改善につながると思う。 《理科》実験・観察など体験的な学びを重視し、積極的にオンライン開催の研修会へも参加した。教科会議ではICT機器有効活用の検討を継続して行っている。 《社会》アクティブラーニング、グループワークを導入し「書かせる指導」を行った。NIE活動「しずおか新聞感想文コンクール」では、最優秀賞、優秀賞、学校賞の「3冠」を達成した。 《英語》中学英語と総合学習をリンクさせながら、異文化理解や多様性を学ぶグローバル教育を推進するため、ALTの先生と来年度からの指導計画を見直しをはかった。 《体育》球技大会や体育祭の行事準備は早めに行い、コロナ観戦の危険性についても十分配慮した上で安全に実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・《国語》の記載について大事なことだと思います。 ・《社会》の記載について地味だけれど良いと思います。 ・《英語》の記載について具体的にどんな活動をするのかを明確にして、より進化させていってほしい。

令和3年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

[評価基準は A:十分達成できた(80%以上), B:ある程度達成できた(60%程度), C:あまり達成できなかった(40%程度), D:達成できなかった(20%以下)]

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	学校関係者評価委員の質問・意見	
学習指導・教務関係	1	教科指導	生徒の学力の定着、向上や学習意欲を引き出し、生徒の満足度の高い授業実践ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習、グループワーク、プレゼン、発表など、アクティブラーニングを取り入れた授業を行い、教材・教具等の工夫をして生徒の主体性を引き出す努力をした。 生徒の興味、関心を引くように、日常生活と関連付けて身近で具体的な話題を先生方と情報を共有して取り上げた。 確認テストや小テスト、課題テスト、振り返りシートなどを実施し、基礎力の定着を図った。小テストやノートはコメントを書いて返却するなどのサポートを行った。 教科書の本文の読み方、勉強の仕方の基礎から定着させるように指導し、繰り返し演習問題を行った。 新しい大学入試対策につながるよう定期考査の問題改革を心掛けた。特に過去問は計画的に解かせ、考え方を学び、知識を増やすことを心がけた。 文章を書かせる指導を行い表現力を高めた。「しずおか新聞感想文コンクール」では最優秀賞や優秀賞に選ばれるなど、成果をあげられた。今後もNIEの活動や、税の作文、専門家による講座の開催を継続して行いたい。 ALTの先生方と系統立て、読解、文法、単語だけにとどまらず、異文化理解、文化背景などの学習ができた。 予習を徹底し、学力や学年に合わせて授業内容や方法を模索した。言語習得を促すために、言葉の意味に焦点を当てた活動的な授業を行った。 妥当性の高い論理的な文章読解の方法をスキル化し、その実践力養成のための演習と詳説の機会を十分に設けることができた。 授業態度はよいが結果に繋がらない生徒の学力向上のためにも、休み時間中の準備や、週末課題を工夫した。 《ICT活用》 <ul style="list-style-type: none"> 授業ではタブレットを使用したり、デジタル教科書(文科省実践協力参加)を用いて理解を深めたり、モニター上で生徒のノートと同じ状態を作ったりするなど、わかりやすさを追求した。 classroomやClassi、スタディサプリを用いて宿題配信を行い、動画や課題で復習を促した。ICT機器を用いて授業の充実を図り、SDGsなどの問題にアプローチすることができた。 コロナ禍であるため、対面のグループ活動を減らし、iPadを活用したグループ活動、参加型授業を意識して行った。個人で実験を行えるよう器具や薬品を準備し、実践を重視して行った。 Googleの検索を用いた授業が常に行われるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導でつけた力が大学受験といった目に見える形になることを期待します。《※1～4共通》 小テストやノートへのコメントは生徒のモチベーションを上げることに繋がるのでとても良いことだと思います。 「個人で実験を行えるよう器具や薬品を準備し、実践を重視して行った。」ことについてプラス指向が良いと思います。
	2	授業規律	私語や居眠り等を放置せず、落ち着いた雰囲気を作って授業が実施できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態を把握するとともに、主体的に取り組む活動時間を増やし、生徒のやる気を起こさせる授業態勢づくりに努めた。 ICTラボやパソコン室、図書室や理科室を利用しながら意欲的に取り組む授業づくりを意識した。 生徒が回答する工夫を行えるよう、アクティブラーニングを意識してグループワークなどの手法により、少しでも興味を持って授業に集中して取り組めるように努力した。 過去問に取り組ませるときは本番と同じ状況を作り、授業開始時には机上に何もなくて静かな状況で待つように指導できた。 時間厳守、提出物の完全提出を守らせた。 私語なくしっかり取り組める生徒が多いので苦勞することはなく、安心して学習に集中できる環境があった。全体的なお互いに注意し合える雰囲気作りもできていた。 学習の目的や目標を授業の中で繰り返し確認し、モチベーションをあげさせると共に、挨拶や授業規律を意識させ、授業にきちんと取り組ませるよう日頃から心がけた。 机間巡視を多く行い、声掛けを積極的に行った。集中できない生徒には理由を確認し、個別に声をかけ、適切な指示を出すよう心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな生徒がいるので難しいとは思いますが、「学習させる」のではなく、「好奇心を引き出す」授業や環境が大事だと思います。
	3	欠席・遅刻抑止	遅刻・欠席が多い生徒の状況把握や改善への働きかけができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの対策上、停止となる欠席はあったが、遅刻は格段に減り、遅刻や欠席は少なかった。 授業の中でも様子をよく見て声掛けを多く行い、担任とも情報を共有して、早期対応に努めた。 欠席・遅刻その他連絡がメール(絆ネット)でやり取りできるようになり、連絡が円滑になった。 Classroomやスタディサプリのメッセージ機能を利用して連絡をとり、学習や今後の生活のサポートを行うことができた。(中学) 保護者の方と連絡を取り合い、その日のうちの対応を行った。学年部の先生方と情報を共有しながら進めることができた。連絡や報告の記録を必ず残した。 副担任や学年主任、担任、中等部と連絡を密に取り正確な情報共有に努め、協力して状況把握と遅刻・欠席の多い生徒の指導を行った。保健室の先生やカウンセラーの先生方も生徒を支えてくださった。 気になる様子があれば放置せず、その都度コミュニケーションをとることを心掛け、押しは引くスタンスで話を繰り返して生徒が自ら考えることができるように指導している。 生徒の内面の問題に目を向けるよう心掛けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際、分散登校やオンライン授業の実施により、私共でも遅刻が格段減りました。やはり通学の時間が必要でないことによるメリットと考えると良いのかも知れませんが。 欠席や遅刻の連絡がネットでのやり取りで可能になったのですが、直接会話ができないことについて不都合はなかったのでしょうか。 ⇒【学校より】欠席や遅刻の理由がきちんと残るので出席管理がしやすくなりました。必要に応じて担任が自宅へ電話をかけた確認をとりましたので、特に問題はありませんでした。 「生徒が自ら考えることができるような指導」は今後も是非継続して行ってほしい。
	4	読書指導	朝読書が落ち着いてできるよう、クラス内の雰囲気作り(担任)、遅刻者指導(副担)を徹底できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書やテスト前の朝学習等、落ち着いて取り組むことができている。1日が読書で始まると落ち着いた生活ができ、とてもよいと思う。 教員が率先して開始時刻前から朝読書に取り組み、読書をする雰囲気づくりができた。生徒たちも自然に開始時間前から机に向かうような習慣ができてきた。 事前に朝やるべきことを予め示すことで、チャイムが鳴ってから席を立つ生徒も、おしゃべりする生徒も一人もいなかった。各自が静かに、自分のやるべきことに向き合っていて取り組んでいた。 文化委員会では先生方のお勧めの本の一覧や、進路につながる分野ごとのお勧めの本などの掲示物を校内に貼り出し、紹介することができた。 お勧めの本棚を教室につくり、定期的に紹介している。 読み終わった本の要約や、感想を手帳に記入して記録に残すことができた。 進学する際に必要な知識をつけるためにも、新聞の天声人語や記事の一部を印刷して読むことを計画的に行った。 休み時間にも読書する姿や、どんな本を読もうかと友だち同士で情報交換している姿をよく見かけた。全体的に読書が好きな生徒が多いように感じる。 朝読書のおかげで朝落ち着くことができ、人格形成や思考力の強化、国語の成績向上などにもつながったのではないかと感じる。 今後も読書の目的を理解、意識させながら読書好きな生徒を増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書が定着することでその日を気持ちよくスタートすることができたり、学習にも集中することができたりしてとてもいいと思います。 「今後も読書の目的を理解、意識させながら読書好きな生徒を増やしていく」というのは難しいテーマですね。あまり型にはめしないで、好奇心のなすがまま、自然に本を手に取り、読書に親しめたら幸せだと思います。

令和3年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

[評価基準は A:十分達成できた(80%以上), B:ある程度達成できた(60%程度), C:あまり達成できなかった(40%程度), D:達成できなかった(20%以下)]

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	学校関係者評価委員の質問・意見	
生徒指導・総務関係	1	生活指導	服装・頭髪等の違反者の生活指導や、言葉遣い、挨拶などマナー教育が徹底できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時、副担任が玄関での声掛け指導を実施した。(制服の乱れがないかの確認をし、その場で指導。) ・服装や頭髪などの違反者はほとんど見かけなかった。風紀面はほぼ問題ない。 ・素直に指導に従う生徒が多かった。指導に従わない生徒に対しては放置することなく粘り強く指導できた。 ・全職員が共通認識を持って、足並みを揃えることが不十分だった。⇨職員会議で繰り返し指導を呼びかけられることで、教員間で共通認識を作りやすくなった。 ・日々の啓発指導と、「その場の指導」を心がけた。地味で時間のかかることではあるが、風土を作っていくために地道に種蒔きを続けていきたい。 ・毎朝、風紀として服装を整える時間をSHRに入れている。根気よく続けると自分たちで気づけるようになった。教員主導ではなく生徒同士で呼びかけられるようにしたい。 ・中学1年生は、4月にマナーアップ講座があったので、挨拶の大切さを学年の始まりに伝えることができたのはよかったと思う。 ・風紀検査を定期的実施し、再検査もすることで一定の節度が保たれていると思う。⇨反面風紀検査の時にだけ前髪をとめていたり、服装を正したりしている生徒もいる。 ・生徒課に丸投げではなく、より身近にいる担任が率先して生活指導するという自覚をもって指導していきたい。 ・継続的な指導の下、改善傾向が見られたように思える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的になって、生徒会運営、行事などに取り組めるようになると素晴らしいと思います。(※1~6共通) ⇒【学校より】生徒の主体性を育て自立(自律)へと導く、ということは、本校の大きな課題だと思っています。失敗を恐れず、生徒の元来持っている力・能力を信じて「やらせてみる」ことが肝要であると考えており、そういった機会を学校生活の中でのなるべくたくさん設けていくことが私たち教師の大切な仕事になると感じています。 ・「常葉生の良さだと感じる」ことについては同感です。これからもその良さを生かしてあげてほしいと感じます。
	2	学校行事	生徒を主体的に動かし、各行事のリーダーを育成することができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で学校行事が次々と縮小されていく中で、生徒、職員共に、今できることを頑張ったと思う。 ・行事ではリーダー格の生徒たちがよく考え、係分担したものをそれぞれが責任持って仕事を行い、次々と出てくる課題にも対応して頼もしかった。 ・行事に限らず普段の生活でも率先して行動する生徒とそうでない生徒に差があり、生徒一人一人の主体的取り組みにはまだ十分でないと感じられる。他人任せで消極的な生徒が年々増えている。 ・生徒を促すことよりも、こちらが先回りし困らないようにしてしまったと猛省している。失敗はつきものとして、むしろそこから学ばせるような指導を今後していきたい。 ・行事そのものも、教員が運営しやすい形、ではなく、生徒にとって何がベストかという基準で考えるべき。 ・今まで教師側でプランニングした上で生徒におろしていた、行事企画や施設の運用、きまりの設定などに、企画段階から生徒会役員を交えるように変更したことで生徒の声が反映されやすくなった。また生徒側にも自らの発言や企画内容等に妥当性や責任が求められるようになり、生徒の成長の一助となった。 ・学校行事に対する生徒のモチベーションが低いと感じた。生徒が魅力を感じるような企画を検討しなければいけない。 ・他を活かしながら、自分の役割に徹することを意識的に活動の中で実践していた生徒がとて多く、中学生の潜在能力の高さに驚いた。「リーダーシップ研修」での学びをこうやって活かすことができるのかと感心した。これらは生徒の学習生活日誌を見ることで気づくことができた。 ・ワンチームを意識して、みんなで協力しながら活動する姿が見られた。できない生徒を助け、得意な分野では自ら進んで活動できるよう、みんなで声かけをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・B評価となっている「学校行事」、「防災・防犯」、「部活・生徒会」については、状況的に活動の制限が出され難しい部分だったと思います。最も判断に苦しむところだったと感じられますが、ウイズコロナという言葉があるように、今後は新しい形での実施の仕方を考えていくべきではないでしょうか。 ※例えば様々な行事をオンラインでも実施できるような形作りなど ⇒【学校より】密を避けるということで活動にもいろいろな制限がかかる中、進路課企画「3年生に聴く」は録画で、また講師を招いての「面接レクチャー」、「弁論大会」などはオンラインで実施することができました。 ・教師が手を出しすぎてしまったことを反省としてあげられたことがすごいと思います。先生方には生徒の自発性を大切に見守っていただきたいと思います。
	3	教室・校内美化	清掃指導を徹底し、教室や校内の美化に努めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策に応じた清掃の在り方の模索が急務。来年度はクラス全員ではなく、人数を減らして掃除をするようにした方がいいと思う。 ・清掃分担の配置の随時見直し。 ・生徒は真面目に清掃するだけでなく、掃除時間でなくとも校内美化に協力的だった。当たり前のようにやるべきことを行う姿勢が、入試時期の生活にもつながっていた。 ・できる限り清掃と一緒にやるように心がけた。実際に教師が体を動かしているのを生徒が見ることで、清掃・美化に取り組む意識や態度が前向きなものになればよいと思う。 ・場所によっては早めに清掃を終えてしまう生徒たちもいる。清掃の質を上げるため、自発的に汚れているところを探したり、他の生徒を手伝うことができるよう仕向けていきたい。⇨クラスの生徒の大半が自分の分担箇所の清掃が終わっても、他の分担の終了していないところの手伝いを自然にするようになり、クラスみんなで協力し合う雰囲気できたことがとてもよかった。 ・日頃から机周りやロッカー内の整理整頓がきちんとできている生徒が多数いる。清掃委員による清掃チェックは効果的である。 ・地域清掃は以前に参加した生徒の満足度が高かったため、コロナ禍ではあるが是非実施できたらよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コロナ対策に応じた清掃の在り方の模索が急務」とありましたが、生徒に目的意識を持たせることで人数が少なくてもきれいにできると思います。
	4	貴重品管理	朝のSHR時に貴重品提出を徹底できたか。記録用紙に未提出者を記録したか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日SHR前に担任が机を回ってすべて回収し、担任が運搬、目の前で配布するようにした。 ・個人で貴重品袋を用意させてリスク軽減の対策ができたことはよかった。 ・貴重品に関しては各クラスできちんと管理する習慣がついているため、盗難の事案や携帯使用の指導がなくありがたい。 ・記録用紙による徹底が適切なのか見直すべき。 ・今後のICT教育等にもかかわってくるので「スマートフォンの使用規定」や「管理の仕方」を改めて考える必要性を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「今後のICT教育等にもかかわってくるので『スマートフォンの使用規定』や『管理の仕方』を改めて考える必要性を感じている。」の記載について スマートフォンは善か悪か、難しいですね。
	5	防災・防犯	防災や防犯の意識を向上させることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯センサーの設置推奨。 ・犯罪情報など、伝えるべき情報を伝えるとともに緊急時の行動について意見交換を定期的に行った。命に係わることなので、積極的に声かけができた。 ・防災訓練、避難経路はコロナ禍により縮小規模となったが実施できてよかった。⇨学年単位での実施であり、学校全体での動きが確認できなかったのが、生徒の意識づけが不十分であったと思う。学期ごとなどに複数回訓練をしてもいいのではないかな。 ・非常時にボトルネックとなりうる箇所もあり、避難に要した時間を測るなどの実践を行えなかったのは残念だった。 ・全校生徒に対し、防災頭巾を各自用意させた。⇨強度の面でヘルメット等に変更できないものだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題がはっきりしているので早急に対応願いたい。
	6	部活・生徒会	部活や生徒会を活発にし、生徒の育成ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・期間限定で、部活動の中止や対外試合禁止等、活動が大幅に制限されてしまったのは残念。⇨それなり以上に参加機会はあった。 ・できる限り部員同士の距離をとるか、マスクを着用してできる範囲での活動を、短時間でできる工夫して身体を動かすことができた。 ・練習時間の短縮を行うために、活動時間の効率化を徹底。換気、消毒を徹底するとともに、体調管理を各々重要視させることができた。 ・コロナ禍において大会やコンテストなどが次々に中止・延期となり、練習についても制限がかかる中、目標設定やモチベーション維持が大変だったと推察される。 ・顧問の導きで、多くの生徒たちが部活動に熱心に取り組み、成長の一助となったと感じている。 ・それぞれの特性を活かして、場面ごとリーダーを変える、高校生の経験者が中学生に指導するなど、全員参加型の部活動を心がけた。 ・部活動では外部指導者との連絡を密にとり、円滑に運営できた。⇨外部指導者の指導が必要な体制が望ましいか、検討が必要。 ・部員の人間性向上に繋がる指導ができたと思う。⇨活動を通して、協調性・責任感・規範意識を育てたいと思ったが、難しい面があった。 ・行事企画や施設の運用、きまりの設定などについて、企画段階から生徒会役員を参加させ、「自治」の土台作りを心がけた。 ・来年度は今年できなかった募金活動や地域清掃、駿府公園の花壇の植え替え活動にも積極的に参加したい(中学生徒会)。 ・コロナの時期で行事が少なかったからこそ、生徒たちは一つ一つの活動に感謝の気持ちをもって真剣に取り組めたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染の中、特に部活動は大変だったと思いますが、この項目は是非評価「A」を目指してほしい。エネルギーも必要なものばかりで苦しいけれど、卒業時、心を動かすコアも含まれる。 ・コロナ禍で大会の参加が減ってしまい進路にもひびいたのではないかと心配されます。先生方には大変でも生徒の力が伸びるよう指導してあげてほしいです。 ⇒【学校より】部活動や諸行事は、生徒の人間性を高めるうえで大変有効であることは言うまでもありません。今後は、コロナと折り合いをつけ、なるべく「実施の方向」にシフトしていくことになると思いますので、対策等充分にしたいうえで企画していきたいと思っています。

令和3年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

[評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)]

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	学校関係者評価委員の質問・意見	
進路指導	1	進路意識	進路行事や進路情報の提供等を通して、生徒の進路意識を高めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・classroomを活用し、情報の提供や小論文の添削、面接練習などを行った。 ・受験レポートの活用や「面接ノート」作成、オープンキャンパスや大学相談会への参加を促し、各自の進路意識を高める用意をした。 ・各学年ごとに親子進路ガイダンス、学年集会などを実施し、進路に関する情報提供を行った。コロナ感染防止のため、オンラインなどを積極的に利用したガイダンス(「3年生に聞く」「先輩を囲んで」)が実施できたのはよかった。 ・進路講話や系統別での連携講座、職業適性検査を参考にさせることで進路選択の視野を広げることができた。 ・現高校2年生から「附属高校総合能力入試」が始まる。新しい入試制度の導入ということで情報提供を確実に行った。かなりの情報量なので伝達するタイミングや、おろし方(個人かクラス単位か全体か)などを工夫し、三者面接では意思確認を行った。 ・『進路の手引き』の発行。進路に関する資料の掲示や配布、指定校推薦の一覧表を作成した。 《中等部》 ・中学時代から常葉大学に関心を示し、また他の大学についても知ろうとする意識が高い生徒がいる。高校卒業後の進路を見据えた生徒も以前と比べて多い。高校での学び(コース選択)を意識させた進路指導を図りたい。 ・指導だけで生徒の意識や行動を変容させるのは難しい。なりたいたい仕事や明確な生徒ばかりではないし、今ある仕事や将来あるとも限らない。「自分はどうか」「世の中はどうなっているのか」を知り、考えさせる指導が必要だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべてのことがここに繋がってくると思います。進路指導の項目がオール「A」になることを期待します。《※1～5共通》 ・中学時代から大学進学、特に常葉大学への興味を持つことは素晴らしいと感じます。将来なりたいたい自分を想像することの大切さ、そして、そうなるためにはどうすべきか考える力が必要だと思います。できるだけ多くの体験の機会を生徒たちに持たせることを、このコロナ禍でも実現してください。 ・本当にその通りだと思います。以下共通ですが、なぜ勉強するのか、それはどう人生を変えるのか、伝え続けなければいけないと思います。
	2	学力対策	授業や補習、朝学習等を通して、生徒の進路達成のための学力向上ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、基礎学力の定着を心がけた。加えて、調べ学習やグループワーク、プレゼンテーションの機会を設けるなどアクティブラーニングを積極的に導入した。 ・高3の補習が早目にスタートが切れた。また、受講者が多い国語の講座は動画を視聴させるなどの工夫を行った。 ・夏の補習では、過去問題の解説を丁寧に行った。受験形式での実践型補習は附属高校入試で大いに効果があった。 ・履修科目にない科目も演習を行った。生徒の学力を把握した上で、頑張ればとけるような問題や応用問題、過去問に合わせた問題を意識して作成するなど試行錯誤した。 《中等部》 ・全体的に基礎計算力、語彙力が不足していると感じた。百ます計算や頻繁な小テストの実施が必要。 ・週2回スタディサブリを実施。またテスト前にはタブレットを貸し出し、家庭学習を充実させた。さらに活用を進めていきたい。 ・学年を問わない形式での補習を行った。純粋に自分がわからないところを学ぶという形となるので、学ぶ意識の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎計算力、語彙力ともに、就職活動においても筆記試験(SPI等)で必ず必要となる項目です。中、高時代にどれだけ基礎学習がしっかりできているかが問われるところでもあり、特に重要な項目だと感じます。 ・中学の「学年を問わない形式での補習」というのは新しい形の取り組みで良いと思います。
	3	学力分析	定期試験や、模試等の結果分析をすることで、生徒にアドバイスをすることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディサポートを高1・2年では年2回実施。学力と学習習慣の推移を分析した。 ・対外模試の誤答直しを丁寧に行わせ、対外模試の分析を通じて、今後どうすべきかを生徒自身に考えさせた。クラスの順位よりも全国での成績、弱点分野の確認を意識させた。 ・Googleformで試験後に反省をとり、学習計画や学習時間にも着目した上で、結果と合わせ個々へのアドバイスを行った。 ・定期試験2週間前から、「未来手帳」を活用し、学習記録をつけさせた。事前に目標を立てることで、計画的に学習に取り組む姿勢が生まれたと思う。試験後は点数や感想を記入させ振り返りを行い、次のテストに向けて考えさせた。面談では生徒の状況を確認しながら一緒に学習方法を考え、点数のとれない生徒には教科担当に個人的指導をお願いした。 ・全国模試の範囲が、本校の既習範囲ではなかったり、生徒の学力レベルとの差がある。 ・教科や学校全体での情報の共有化には、改善の余地がある。 《中等部》 ・テストごとに振り返りを行い、結果を共有化した。日常的に職員室内で、個々の生徒に合った学習方法の提案をし合い、生徒に伝えることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国模試の範囲が、本校の既習範囲ではなかった」とあるが、授業進度(スピード)に関する検討も必要ではないか。 ・日常的に職員室内で、個々の生徒に合った学習方法の提案をし合える中等部の雰囲気は良いと感じます。テスト結果の共有も大切なことだと思うので、先生方の連絡を密に教科指導を行ってほしいと思います。
	4	キャリア教育		A	<ul style="list-style-type: none"> ・連携講座を通じて生徒のキャリア意識の向上をはかることができた。どの講座においても生徒たちは意欲的に取り組んでいる。また、レポートもしっかりまとめられていて、自己の進路実現につなげられていると感じる。 ・日本語と日本文学を研究する楽しさに触れ、言葉や作品が持つ力を再発見できた。法学や経済・経営学について学び、自分たちの生活や行動について考える機会となった。国際化した地域社会に生きるための外国語、海外事情について学び、知見を深めた。教育職・心理職に関する視野を広げ、教育の本質や教師の仕事の魅力などについての理解を深めた。 ・どの講座も進路につながる内容であったので、受験の際の書類作成や面接などにつなげることができた。 ・高3年保育の連携講座は満足度が高かった(ピアノ、オペレッタ等の表現活動)。橘・菊川でも本校の連携講座を研究し、それに近い活動を実施しているので、差別化することが必要だ。 ・生徒がもっと発言する機会、考えを共有できる機会があればよいと思う。 ・本年度より始まった「未来部」を継続的な活動にすることで、探求内容をより深めていきたい。 《中等部》 ・中1はキャリア教育として、働くことの意義、職業調べなどを通じ、自己の将来について考えさせた。 ・中2、中3は「シズクリプロジェクト」を通して、「学ぶ・調べる・まとめる・発信する」などさまざまな力を身に付けることができ、生徒の成長がはっきり見える活動となった。「リーダーシップ研修」の教育内容もとてもよく、「人とのかかわり方、高め合い方、認め合い方、困ったときの対処方法」などを学んだことが日常の学校生活でも生かされていたと思う。 ・縦割り学習で「シズクリ」を行ったことで学年を超えた学び合いの形が生まれたことは大きな進歩だったと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の『未来部』や、中学の『シズクリプロジェクト』などを継続的な活動にすることで、キャリア教育の質をあげ、探求内容をより深めていければ非常におもしろい試みだと思います。
	5	資格取得	各種検定の奨励や、資格取得のための事前指導ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や担任、学年で資格取得の目的、効用、メリットを伝え、積極的な受験を促した。漢字検定は全校一斉受験ができたが、英語検定は受験料の値上げや、ヒアリングの問題があり、一斉実施が難しかった。 ・受験者に対しては過去問題を与えたり、苦手分野のプリントを個々に用意するなど、個別指導を丁寧に行った。 ・授業内では出題傾向、参考問題集の選定から問題の解き方についての指導を行い、個別で面接練習を実施した。 ・資格取得は推薦入試に欠かせないものとなっている。取得に向けての働きかけを行う一方で、無理のない検定受験スケジュールを考えていく必要がある。 《中等部》 ・日常から資格取得のための学習を自主的に行うよう奨励している。3学期にはタブレットに英検・漢検対策のアプリを入れ生徒が自主的に学べる体制を整えたので、来年度は更に資格取得者を増やしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定、数学検定、英語検定は多くの生徒がぜひ積極的に受験し、資格を取得してほしいです。 ・検定実施等、コロナ禍での実施・対策は難しかったと思われます。来年度に向けて、タブレット等の活用を期待します。 ・ここは来年度評価「A」にできるよう、工夫していただきたい。
	6	保護者との連携	生徒や保護者との面接を通して個別に生徒の進路意識や学習意欲を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の三者面談を実施。時間を長めに設定して、話し合うことを心がけた。本人や保護者の希望を達成するためのサポートすることを第一とし、国公立大学や難関私立大学の情報をできるだけ伝えた。 ・模試の結果(個票)を使い、今後の学習課題を話し合った。 ・気になる生徒の保護者には必ず連絡を取るよう心がけた。誤解を与えないよう、伝え方には細心の注意を払った。 ・限られた面談の機会だけで、進路意識や学習意欲を向上させるのは難しいが、どの先生も丁寧に対応している。ただし、家庭内の問題が年々増加傾向にあり、どこまで教員が踏み込んでいいのか悩むことも多い。 ・「きずなネット」を用いることで、随時いろいろな連絡や報告ができ、保護者とのこまめなやり取りが可能になった。 《中学》 ・コロナの影響で保護者会や授業参観会などを通じて子供たちの学校での様子を伝える機会が激減していることが非常に懸念されたが、小さなことでも気になることがあれば保護者との連絡を密に行い、連携を深めてきた。担任だけが抱え込むのではなく、学年の隔たりなく、すべての生徒にすべての教員が関わる。中等部のそうした姿勢が保護者にも波及していると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって進路は一生の問題です。自分だけではなかなか決められない時もありますので、三者がよく話し合って生徒にアドバイスし、生徒の力になってあげてください。 ・「家庭内の問題」に教員がどこまで踏み込むべきか。非常にデリケートで難しいテーマだとは思いますが、常葉の先生方は以前から頑張ってきていると思います。少なくとも生徒とは正面から向き合っていて逃げ場を作っていないと思います。